

## 議長定例記者会見 会見録

日時：令和2年8月11日 10時30分～

場所：全員協議会室

### 1 冒頭の挨拶

### 2 質疑項目

- 新型コロナウイルス感染症への諸対応について
- 三重民主連合について
- 衆議院の解散について
- 紀伊半島三県議会交流会議について

### 1 冒頭の挨拶

(議長)おはようございます。ただいまから8月の議長定例記者会見を始めさせていただきます。本日は発表事項はございませんけれども、新型コロナウイルスにつきまして少しコメントを述べさせていただきたいと思います。

新型コロナウイルス感染症につきましては、本県におきましても8月以降、特に7月の下旬ごろから短期間で新規感染者が急増しておりまして、8月3日には知事から緊急警戒宣言が発出されたところでございます。県内の新規感染者は、県外からの関連する事例が多く見られているわけでございますけれども、ここに来まして家庭内なり身近な方々からの感染であるとか、また、感染経路が分からない事例なども出てきておりまして、大変憂慮される場所であると感じております。今はとにかくウイルスを持ち込まない、そして持ち込まれたウイルスを拡散させないということが肝要であると考えております。

県議会の定例月会議も来月から始まってまいりますので、感染防止対策をあらためて徹底したいと考えております。県民の皆さまにおかれましては、引き続き新しい生活様式による感染防止対策の徹底によりまして、ご自身の身を守っていただきますとともに、ご家族や知人等への注意喚起などもご協力いただければと思っております。

また新たに新型コロナウイルスに感染した方々や、その家族やお勤め先の企業などに対する差別とか偏見いじめ、誹謗中傷が生じないようお願いしたいと思います。今後は、社会経済活動への影響を最小限にした上で、県民の皆さまの命と健康を守っていくことが、重要かつ喫緊の課題でありますけれども、まだまだ厳しい状況が続くことも想定されます。このため8月4日の予算決算常任委員会によりまして、令和2年版成果レポートに基づく県政運営等に関する知事への申入れの中におきましても、みえモデルに基づく医療体制の充実・強

化、事業と雇用を守るための事業者支援の充実・強化等について、強く要望がなされたところでございます。

また、議会の運営に関しましては、感染拡大防止に係る補正予算などの急を要する議案の迅速な審議、議事堂における感染防止対策の徹底など、これまで以上に気を引き締め適切に取り組んでいきたいと考えております。私からは以上でございます。よろしく願いいたします。

## 2 質疑応答

### ○新型コロナウイルス感染症への諸対応について

(質問) じゃあ幹事社のほうから。先ほど、議長おっしゃられた議事堂における感染予防対策の徹底というところで、具体的にはあらためてどういう対策をされるのか教えてください。

(議長) 議会の感染予防ですか。これまでもしっかりと対応してきたところでございますけれども、特に、最近の状況を見ておまして、県外への移動についてはお互い自覚を持って慎重に検討いただくとか、また、普段、熱を測ったりしながら体調をしっかりと管理をしていただく。体調が悪い場合は、登庁の自粛を検討いただくとか、そういう基本的なところについて、しっかりと今一度お互い自覚をしながら、臨んでいきたいというふうに思っております。

(質問) 熱測ったりするその体調管理というのは、特に義務付けるわけではないんですか。

(議長) ごめんなさい。

(質問) 体調管理を義務付けるわけではなくて、それを推奨していくっていう方針ですか。

(議長) 今のところ、もちろん推奨していくっていうことでございますけれども、今後、しっかりとした対応を、取っていくべきと考えておりますので、強制ということはできないんでしょうけれども、あらためて、しっかり意識し合えるような形をとっていきたいと思っております。

(質問) ありがとうございます。幹事社からは以上です。

(質問) 8月中に臨時議会を開かれる予定はありますか。

(議長) 議会側からですね、8月内に臨時会、議会側からの話ということですか。

(質問) もし当局が何か提案があるのならそれも含めて。

(議長) ごめんなさい。今、聞いておりますのは、9月会議を待たずして、ちょっと早急に補正予算、国の補正予算を受けた上での補正予算を、検討されておられるようにも聞いておりますので、8月のうちに、議会を開かせていただく必要があるかもしれません。それについては、早速、要請がございましたら、柔軟に迅速に、対応させていただきたいのとですね、議会のほうから、全員協議会を開催させていただいて、そして今、大変憂慮すべき状況だと思っておりますので、感染者が増えてきておりますし、状況も大変深刻な状況になってきておりますので、あらためて新型コロナウイルス感染症への対応について、一度、9月会議までに、全協で報告を聞きたいということで、今申し入れて調整をしておるところでございます。

(質問) 全員協議会は、おそらく開かれるであろう臨時議会と合わせて、同じタイミングぐらいで、開かれようというお考えでしょうか。

(議長) いや、それ以前に、おそらく執行部側から求めていただく日程の以前に、全協は開催させていただければと思っております。一応全協でいろいろ今の状況のお話も聞かせていただき、またあらためて県の対応の在り方も聞かせていただいて、その上で臨んでいきたいとも思っておりますので、今調整中でございますけれども、そういうようなことでございます。

(質問) 発表項目以外では特に幹事社から無いので、本件以外で何かあれば。じゃ無ければ。

—第二県政記者クラブの方も含めてお願いします—

(質問) 県政レポート申し入れ含めて、全般に今議会があるのが、執行部がすでに挙げていることの追認でしかないじゃないですか。全体にその独自の急増している対策っていうのは、全協で話すってということですか。あれはでも予算の関係の全協ですよ。今度開く全協って。確か8月19日くらいだった。

(議長) こちらから、議会側からお願いしている全協は、予算を前提にしたということよりも、今のこの感染が拡大している中で、県の対応の在り方、中で

も医療提供体制が本当に安心できるのか。国から新たにこの方針も出ておりまして、それに基づくベッド数であるとか、そういうものの推計も7月内にされているところもあると思いますので、その点も含めながらしっかりと聞かせていただいて、県民の皆さまからいろいろ議員も聞かせていただいているところもあると思いますので、それも踏まえながら今の現状も聞かせていただいて、補正予算、並びにまた9月の会議に臨んでいきたいということで全協をさせていただきます。

(質問) だから結論から言えば、8月中旬にやる全協で少なくとも予算の関係と補正予算の関係と、それとコロナが急増している関係について意見をある程度取りまとめるって話ですか。

(議長) 意見は取りまとめておりません。

(質問) 取りまとめるって、議員から意見が出たら何らかの形でまとまるじゃないですか。そういう意味の取りまとめね。

(議長) はい。

(質問) そういう論議をしたいということですね。

(議長) そうですね。

(質問) だから、全般にその対応が遅いっていう感じがあって、少なくともプレミアム旅行券の件とか、あれも8月17日待って判断するって話なので、その辺含めて議会が何らかの、経済対策と命の両立、みえモデルをやっているわけだけど、これは果たしてそれでいいのかどうかとか、あるいは警戒宣言を出したけど、愛知、岐阜は緊急事態宣言なんですね。なんでこのときに三重県は乗らないのかと。東海3県で動きがあるわけだから。だとしたら、あのときに緊急事態宣言でもよかったじゃないですか。そういうことの論議っていうのは、要は8月の半ばまで待ってやるってこと自体が何かスピード感が無いですけど、その辺はどう思われますか？

(議長) 確かに我々議会ももっと早く全員協議会を持って、今のような観点も含めて聞かせていただく必要があるというふうに思っておりますけれども、いかんせん、さまざまな日程のある中で日を作るわけでございますので、なかなかこちらの思うようにいきませんでしたし、議会のほうにもさまざまな日程

が入って動かせない日程があったりして、大変急ぎながら日程を作るのが苦慮しているところがございます。確かに今少しというか、もう少し早くそういう機会を持たせていただくべきであろうとは思っておりますけれども、できる限りの日程の中で、それでも早い日程を見つけて対応させていただいておるということでございます。

（質問）だから議会内におけるコロナ対策は比較的に議会内のことだからやりやすいと思うんですね。あの中でこの前全協かなんかで、代表者か、出た案で、傍聴者はできるだけ傍聴を控えていただいて、インターネットを活用みたいなことを書かれてあったじゃないですか。それからいったら我々その記者クラブに対しても、傍聴はしないでできたらインターネット等で見てほしいとかそういうことも含めてるんですか。

（議長）いやそういうところをちょっと考えておりませんが、一遍そういうところはきちっと整理をさせていただくべきところがあるんか分からないですね。

（質問）要は全く全否定じゃなくてそこは検討するんですね。記者クラブの記者の傍聴というのはインターネットとかでやってほしいとか。

（議長）いやいや、記者さんに対する対応のさしていただき方っていう限定じやなしに申し訳ないですけども、議会の対応の在り方というのはですね、まだこれから整理していく部分があるかと思しますので、今ご指摘のいただいたところも踏まえながら、対応の仕方全体をもっと整理していく必要があるということで、すいませんが記者さんに対する対応の仕方という限定ではございませんけれども、全体としてまだまだ整理していく余地があるところはあるんだろうというふうに思います。

（質問）議長が質問の真意をご理解してないのかもしれないですけど。要はそんなことがあるべきじゃないという思いで聞いているわけです。そんな、全国で記者クラブの記者が、例えばインターネットで傍聴しておいてくれと、直に議場来てくれるななんてことやって、それこそ大問題ですよ。

（議長）ええ。

（質問）それはないんですねという確認で言ってるんで、検討もくそもないじゃないですか。

(議長) そう。わかりました。はい。ございません。

(質問) ないんですね。

(議長) はい。

### ○三重民主連合について

(質問) あと議長は今、地域政党の三重民主連合の正会員でしたっけ。それともサポーター。準会員。

(議長) 今、三重民主連合というものが、ご存知のように正式な国の政党ではございませんので、何をもち正式な会員っていう根拠になるのか分かりませんが、とにかく、選挙の時には推薦をさせていただいておりますので、正式な会員ということか分かりませんが、議長に就任させていただいた後は、できるだけ公平な立場でなければいけませんので、今は自分では、一時期ちょっと置かせていただいているっていうような状況でございます。

(質問) 置かず位置付けはサポーターなんですか、会員なんですか。

(議長) サポーターというのも無いんです。

(質問) 新政みえさんの中でサポーターだっておっしゃってる議員いますよ。

(議長) そうですか。

(質問) はい。

(議長) 私は正式な、これまでは立場だというふうに、会員っていう言葉が合うのかどうか分かりませんが、所属しておる立場であったというふうに思いますけれども、議長に就任させていただいている間はですね、良識での対応をさせていただくつもりでございますので。

(質問) 要するに多分、会員とかサポーターといたら、毎月その払うお金が違うわけでしょうけど。地域政党の三重民主連合の場合は、そういう運営金の徴収は無いということですね。

(議長) はい。

(質問) だからそこから本題ですけど、今一応野党再編という形で動かれてて、三重民主連合の代表の岡田衆議院議員も一応その関わる立場じゃないですか。そういうのから考えて、野党再編が盆明けぐらいまでに何とかなるんじゃないかという話ですが、その辺、議長どういうふうに捉えられてます？

(議長) 議長の立場でございますので、ちょっとその辺の返答は控えさせていただきますと思います。

(質問) そのまま文字にしていいいんですね、議長の立場だから控えるっていう。

(議長) はい。

(質問) それだったら何にも政治については答えられないことになりますよ。例えば、政府のコロナ対策の動きであるとか、あるいはGoTo キャンペーンであるとか、それも全部政務じゃないですか。だからそれだったら議長だから答えられないっていうんだったら、本来、会見成り立たないじゃないですか。

(議長) そうなりますか。

(質問) はい、なりますね。少なくとも議長は議長だけど、別に、会派抜けて議長になられてるわけじゃないんで他の議会みたいに。それだったら議長の行司性というか、中間的な意味合いってのは強いけど、三重県議会の場合は会派に所属したままなんですよね、前から言ってますけど。だとすれば、その会派の意向ってのはある程度背負ってるわけだから、当然、野党も中にいらっしゃるわけでその再編について何らかのその考えがあってしかるべきじゃないですか、政治家ならば。議長は政治家でないわけないでしょ。単なる行政の議会のトップじゃないですよ。政治家だからそれになってるわけで、その間に政務のことについては聞くのは当たり前の話じゃないですか。

(議長) いろんな立場の議員の方々がおいででございますので、一応その代表という立場で議長の場所をお預かりしておりますので、私の個人的な感覚とか考え方とかがどうしても話ししている中で出てくるんじゃないかという懸念もございますので、なかなかちょっと慎重にならざるをえません。

## ○衆議院の解散について

(質問) じゃあ、ひるがえって副議長にお伺いしますけど、前、総選挙があるかもしれないということで、6月7月、6月だったかな。ちょっとお聞きしたときに、総選挙ね、その時に副議長は、個人的には今やるべきではないみたいなことをおっしゃって、今、9月もこれもあるかどうかわからないですけど、何となく解散があるようなあるいは、無いようなそういう形でアップダウンしてるんですけど、副議長はどう思われますか、その総選挙について。

(副議長) はい、ありがとうございます。私は変わらず解散すべきではないという考え方でございますので、今、コロナウイルス対策をしっかりと収束をするまで、政府がしっかりとした対応をしていただきたいという思いでおります。今、第2波がきておるこの状況の中で、三重県もそしてまた全国に非常に感染者が増えている状況の中で、政府だけが、そしてまた、自民党、与党だけがそういった考え方で選挙しようとかいうような形でもっていくこと自体、これは間違っているというふうに私は思っておりますので、あらためて考えを覆すことはありません。

(質問) 今、自民党県連の役員では幹部をしてられるんですけど、副議長は。県連の中ではそういう話はされてないんですか。

(副議長) ありがとうございます。全然、そういった解散状況というものは私も確認しておりませんし、県連の三役の方もそういった意味合いで話をされることはございません。

## ○紀伊半島三県議会交流会議について

(質問) あと、もっと答えやすい質問で、7月17日に和歌山県で三県議会の交流会議があったじゃないですか。7月なので、この会見までそのことについてお伺いしたいできなかつたんですけど、実際問題、7月17日行かれて、今回、和歌山県議会主催ですけど、それについて、やられて率直なご感想を、議長から。

(議長) 紀伊半島三県議会交流会議について、先般28名参加をいただいたと確認しておりますけれども、三県に共通する課題について意見交換を行う貴重な機会として、また、やはり、隣県で交流を図るということ自体が、大変意義のあることだと思っておりますので、貴重な機会になったと思わせていただいております。率直なところもございましたので、お越しもいただきましたのでね、見てもいただいたというふうに思いますけれども、「過疎地域の



持続的な発展について」という議題と「大規模広域防災拠点の整備」っていう二つの議題に対して意見交換をしたんですが、「大規模広域防災拠点の整備」につきましては、やはり大規模地震が想定される中で意識も高いですし、大変、大規模広域防災拠点の計画については関心が各議員さん高かったようで意見も活発にあったんですけども、「過疎地域の持続的な発展について」という議題のほうにつきましては、正直意見が少なく、ちょっと活発な意見交換とまではならなかったということで、少し残念なところもございました。ただ、やはり先ほども申し上げましたけれども、共通課題を確認し合いながら意見交換を行う場所として、また隣県が交流をし合う場所として大切ですし、意義のあることだと思っておりますので、これからも積極的に続けていくべきだと思っておりますし、さらに添えさせていただきますと、来年が三重県で開催ということでございますので、今回のことも踏まえながら、より積極的に活発な会議になるように工夫ができるものがあれば工夫しながら進めていきたいと思っております。

(質問) 副議長はいかがですか。

(副議長) ありがとうございます。私も参加させていただいて、参加させていただく前に代表者会議の中で、この今の紀伊半島三県議会交流会議はもっと活発化すべきじゃないかというようなお話もいただいて、和歌山県のほうに行かせていただきました。ですから、来年度また三重県で開催をいたしますので、三重県でもしっかりとそういったご批判が出ないように努力をさせていただきますと考えております。

(質問) 議長が言われたのは通り一辺倒のきれいな事で終わっていたんですけど、今、副議長が言われたように、実際その前に一部会派で、この三県議会の交流会議はもう続ける意味があるのかとか、そういう意見も出て、今年はその試金石とかか値踏みで行かれた議員たちもいて、見たわけですよ。実際問題、例えば議長は三県知事会議というのをご覧になったりとか、今年はWeb会議でしたけど、そういうことはされたことはありますか。

(議長) 三県知事会議を見たということは今まで、申し訳ないですけど、ございませんけれども、こちら三県の交流会議がございまして、意識はさせていただいているところでございます。見たことはございません。

(質問) 会議録を読んだこともないですか。

(議長) 会議録は見せていただいたことございますけれども、ちょっと中身までなかなか全部覚えていませんけれども。

(質問) 普通の人間が普通に聞けば、三県知事会議のほうがはるかに中身があるわけです。なぜなら、政策論議やっていますよね。この議会交流会議の場合は、政策論議っていうところじゃなくて、要は理念的なところで終わっていて、じゃあ実際の具体的にどう作るかとか、そういうところの話まで進まないし、じゃあワーキンググループ作るとか、そういうところの連携もない。だとすれば、そのところで、あえてわざわざ集まってやる意味があるのかというふうなことは当然あり得る話で、もしそれを来年に生かすというならば、仮にそのときにたぶん議長はもう交代されていると思いますけど、後任議長に何を残されたいですか。

(議長) 今ご指摘いただいたようなところは往々にしてあるところだと思っていますし、そんなところから先ほど副議長が申された、開催以前から議員さんの中でもその意義についていろいろ感想を述べられる方もございましたし、意義について問われる方もございました。私らなりに一度この今年の経験や内容をあらためて検証もさせていただいて、今ちょっとここでどういうことを残すとはまではよう言いませんけれども、やはりきちっとどうやって運営したらいいかとか、どういう観点を入れたらいいかとか、ちょっとあらためて検証もさせていただく中で、ぜひ来年も開催していただくべきだと思っておりますので、なんらかの工夫について、次の議長に経験からお伝えをさせていただいて、より良いものにしていただくようお願いをしたいと思います。

(質問) どうも。

(質問) 無いでしょうか。無ければこれで終わります。

(議長) ありがとうございます。またよろしく願いいたします。

( 以 上 ) 10時58分 終了